

第7回 東名遺跡整備指導委員会 次第

■日時：令和7年10月28日（火）

14時30分～16時30分

■場所：佐賀市立金立公民館集会室

1. 開会

2. あいさつ

3. 委員長あいさつ

4. 議事

(1) 第6回委員会での主な意見とその対応について

(2) 東名遺跡ガイダンス・埋蔵文化財センター施設整備状況について

(3) 東名遺跡屋外展示実施設計について

(4) 今後のスケジュールについて

(5) その他

5. 閉会

東名遺跡整備指導委員会設置要綱

(設置目的)

第1条 東名遺跡のもつ本質的価値を保存・継承していくために必要な整備事業を円滑に進めるため、東名遺跡整備指導委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

(検討事項)

第2条 委員会は、次に掲げる事項について、協議・検討を行うものとする。

- (1) 東名遺跡の展示整備及び活用に関すること
- (2) その他整備事業を進める上で必要となる事項

(組織)

第3条 委員会は、委員8名以内をもって組織し、次に掲げる者のうちから市長が委嘱する。

- (1) 学識経験を有する者
- (2) その他市長が必要と認める者

(任期)

第4条 委員の任期は、東名遺跡整備事業が完了するまでとする。ただし、委員が欠けた場合における補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長及び副委員長)

第5条 委員会に委員長及び副委員長各1名を置き、委員の互選により選任する。

- 2 委員長は、委員会を代表し、会務を総理する。
- 3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるときは、その職務を代理する。

(会議)

第6条 委員会の会議は、委員長が招集し、委員長がその議長となる。

- 2 委員長は、必要があると認めるときは、会議に委員以外の関係者の出席を求め、説明又は意見を聴くことができる。

(庶務)

第7条 委員会の庶務は、地域振興部文化財課において処理する。

(補則)

第8条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この要綱は、令和4年7月14日から施行する。

東名遺跡整備指導委員会 名簿

区分	氏名	所属	役職	専門	出席	随行等
委員	中本 眞	奈良文化財研究所	所長	造園学	○	—
委員	小畑 弘己	熊本大学 大学院人文社会科学研究所	教授	考古学	○	—
委員	金原 正明	元奈良教育大学	元教授	古環境復元	○	—
委員	赤司 善彦	大野城心のふるさと館	館長	展示普及	○	—
委員	三島 伸雄	佐賀大学 理工学部	教授/副学長	景観	×	—
委員	重藤 輝行	佐賀大学 芸術地域デザイン学部	教授	考古学	×	—
委員	有岡 大介	有岡合同会社	代表	活用	○	—
委員	谷 政司	株式会社JTB	支店長	観光	○	—
助言者	中井 将胤	文化庁文化資源活用課	文化財調査官	国史跡整備部門	○	—
助言者	渋谷 格	佐賀県文化・観光局文化課文化財保護・活用室	係長	県文化財担当	○	—
オブザーバー	堤 圭介	国土交通省九州地方整備局佐賀河川事務所	建設専門官	調整池管理者	○	—
関係機関	川島 健二	佐賀県佐賀土木事務所	副所長	県道関係	○	主任主査・野田 充
地元関係団体	江島 徳太郎	NPO法人 東名縄文の会	理事長	地元	○	—
庁内関係部署	古賀 俊誠	佐賀市建設部建築住宅課	副課長	建築担当	○	主査藤井・吉岡・中島
庁内関係部署	古川 湧暉	佐賀市建設部河川砂防課	技師	調整池管理担当	○	—
庁内関係部署	—	佐賀市経済部観光振興課	—	観光担当	×	—
事務局		佐賀市地域振興部文化財課		—	○	—

1 第6回東名遺跡整備指導委員会 主な意見と対応方針

【資料1】

項目	主な意見		事務局の回答等	対応等
運営コンセプト	1	地域力を活かした仕組みづくりは、既に動き出していて、取り組みが進んでいて素晴らしいと思う。他施設の成功している施設などをみんなで見に行き、議論すればもっと良い案が出てくるかもしれない。	—	今後、先進地視察等の機会を設けたいと思う。
	2	ワーキンググループについては、できれば具体的な活動やイベント、さらに情報発信など、あと開館まで3年しかないので、何らか具体的にコミットするやり方を考えてほしい。	—	今年度は東名活用WGのメンバーが主催、共催するのイベントに参加。来年度はバルーンフェスタなどへの参加を検討中。
	3	このコンセプトは、ワーキンググループなどの仕組みづくりや方向性の戦略というか、ミッションとストラテジーの関係として捉えて良いのか。	そう考えていただいて支障ないと思う。	—
県道の整備と施設から史跡地（調整池）への動線	4	県道の整備後は、施設側にフェンスのある歩道は付くのか。	歩道は施設の反対側に敷設される計画のため、施設の周囲に柵を設置することになっている。	—
	5	県道整備後の交通量はどれくらいを想定しているのか。加えて、施設の来館者がどれだけ横断するのかわかることも想定した方がよい。	道路整備後はT字路になるため、危険性も高く、信号機を付設してもらえるように警察に要望していきたいと思っている。道路の開通によってどのくらいの交通量が想定されるのかということについては、警察や佐賀土木事務所等に算出方法の有無を確認して検討を進めたいと思う。	過去に実施された交通量調査によれば、今回のT字路付近で、自動車の通行量は4,900台/日（平日）と想定されている。 【資料3】を参照。
	6	できるだけ交通の安全確保に配慮し、注意喚起する表示等を設置するように配慮してほしい。		施設の外構工事の中で具体的に検討していきたい。
	7	巨勢川調整池の出入口に橋が架けられているが、将来的に人と車が共存する形になるのか。	交通量や利用者数のシミュレーションも進めて行きながら、可能であれば歩道と車道を分けるような形で検討していけたらと考えている。	佐賀河川事務所とも協議しながら検討したい。
	8	交差点付近の動線は、人が史跡地にどのようにアプローチしていくのかということと密接に絡んでくる問題である。史跡地との繋がりを考える上では非常にクリティカルな問題だと思う。	—	史跡地までの動線イメージを【資料3】に掲載。調整池への動線については、関係部署との協議を進めていきたい。

項目	主な意見		事務局の回答等	対応等
外構・植樹計画	9	「植栽予定の主な樹種」に、縄文時代に有用な樹種が挙げられているが、大木になる木ばかりのようだ。それと樹木が好む環境も考えて植樹しないと何年後かには大変なことになる可能性がある。高木になるところが一部アクセントとしてあって、二次林的な樹木はかなり伐採しても大丈夫だと思う。	現状のプランだと高木が多く、今後検討する予定である。ただドングリ等は活用にも使いやすい有用な樹木もあるので、剪定などであまり高木にならないような工夫をしたい。	植樹工事の中で具体的に検討していきたい。
	10	広場が植栽で仕切られているので、イベントを運営する上ではやりにくいと思う。なるべく低木にするとか、可能な限り樹木などは減らした方が良く思う。	この図には多くの樹木を記載しているが、今後、少し間引いたりして変更しようと思っている。	
	11	東側と南側に広場があって、イベントや体験活動をするということだが、それらに必要な用具等を保管する仮設倉庫のようなものが必要だと思うがいかがか。	広場については、芝刈り機などが必要になると思うので、北東側の一角に後付けで、倉庫等を設置する必要があるかもしれない。	外構・植栽工事の中で、倉庫の設置場所等を検討していきたい。
	12	イベントに関係なくキッチンカーなどの営業希望があった場合、建物内で営業しているカフェとの兼ね合いがあると思うが、そういう場合に営業時間を考慮して受け入れるのか、それとも全く排除するのかわりかどうかわりか運営面も大きく変わると思うがいかがか。	カフェの運営については、今後の検討課題である。キッチンカーについてもどの程度の需要があるのか、カフェも含めてサウンディングなどを行っていく必要があると思っている。	受付業務やイベント運営など、委託業務の範囲も含め、サウンディングを行う方向で検討している。
	13	イベント会場内でWi-Fiがどこまで対応できるか、多目的室だけではなく、いろいろな場所でそれを発信したいという場面が出てくるかもしれないので、予算等の問題はあろうと思うが、ぜひ充実させてもらいたい。	—	できるだけWi-Fi環境を整えたいと考えているので、予算面も考慮しながら、どの程度のことのできるのか検討したい。
	14	施設前広場はどういう位置づけなのかということと、体験広場、イベント広場、施設前広場の地面はどんな状態にする予定か。	施設前広場はインターロッキングというハードな舗装にする予定である。キッチンカーなどの乗り入れが簡単にできるようなイメージで考えている。イベント広場と体験広場は芝生広場で計画している。	—

項目	主な意見		事務局の回答等	対応等
外構・植樹計画	15	イベントをする際に、楽なのは水場があつて洗い物などができると、水の供給が受けられること。それから外で電源が取れること。可能なら、1か所か2か所ぐらい業務用の水圧が強めのものが欲しい。それからテントの使用を想定して、固定できるフックなど、それがあるかないかで、イベント運営がものすごく楽になるので、考えておいた方が良くと思う。	—	設計の中である程度の設置を予定しているが、外構工事の中で具体的な設置場所等を検討していきたい。
	16	利用者側からの視点として、やはり大事なのは居心地の良さだと思う。イベントに行つて、キッチンカーで買った後にどこで食べたら良いか、ベンチの置き方や木陰のつくり方など、そういうことも十分配慮してほしい。	木陰の作り方やベンチの設置など、具体的にイメージしながら検討していきたいと思う。	外構・植栽工事の中で、具体的な設置場所等を検討していきたい。
	17	学生達を博物館に連れて行くことがあるが、ミュージアムショップは人気がある。そこにはガチャポンがあつて、学生は必ず買う。そういうこともリサーチしていただいて、魅力的なショップにできるよう今後検討してほしい。	他の施設の状況も見ながら、ワーキンググループなどでもそういったことについて話していきたいと思う。	—
什器・設備計画及び運営等	18	多目的室は、くっつけたり外したりできる机で、合わせたら丸い机になる感じだが、それは使い方をシミュレーションしてこの提案になっているのか。多目的室でどういう活動をするのかをきちんと吸い上げて、その時にどういう設備が必要なのか、そこは検討を続けていただく必要があるかと思う。	什器関係は備品で購入することになっているので、建築設計で行う予定ではないが、ただ、具体的なイメージは検討しておかないといけないと思っている。	備品購入も含め具体的な仕様を検討していきたい。
	19	スクリーンなどを入れるとしたら、埋め込みや電源の配線など、必要なものが出てくる。どこに電気を通した方が良いとか、そういういろいろなことが出てくると思うので、本来だったら実施設計でそこまで反映しておくべきだと思う。	配線関係の配置はある程度決めている。多目的室は、いろいろな場面に応じた使い方をしたいと思っているのでプロジェクターや音響機器関係は固定ではなく、可動式で考えている。これらは備品で整備する予定で、どこに置かかなど想定して設計を進めている。	
	20	こういう機器もプロジェクターの時代は終わるのではないかと思う。直接つないでクリアな画面を見せた方が良い。	これらは備品で整備するので、良く考えて、実勢に合わせたものを購入したいと思う。	

項目	主な意見		事務局の回答等	対応等
什器・設備計画及び運営等	21	運営コストがかなり高額であれば、サステナブルと言っているにもかかわらず受け入れられないものになってしまう。運営していくにおいても、サステナブルな活動を行っているということを示さないといけないと思う。建築において何か工夫ができること、それから運営において工夫ができることなどを検討いただきたい。	—	建築工事や外構工事の中でできることやランニングコストを抑えるために、どのような工夫ができるのかを検討していきたい。
	22	遺跡を見に行きたいと思わせるような展示を考えた時に、「この遺跡は地中深く、水中深くにあるんだ」というところを見せる工夫はできないか。現地のスケールを感じられるようなものが欲しい。そうしないと、この遺跡が単なる貝塚遺跡になってしまうような気がする。	建物の天井高の部分が幾つかあると思うので、「これぐらい地中に埋まっていますよ」とか、「もともとの集落、縄文人が住んでいた場所はこのぐらいの高さになっていますよ」ということは、工夫して紹介したいと思う。	展示制作の中で検討していきたい。
	23	食としてパッと見る時は、一斉に食材が色鮮やかに盛ってあるような、これを注文しようかと思うぐらいの工夫ができないか。本物の展示は難しいが、できるだけ模型というか、貝輪も腕をつくって、そこに復元したきれいな貝輪を装着するなどして見せることで、元々はこうなんだというイメージを抱かせていただきたい。	「感性と美」のコーナーで、特に出土した貝製品は白く風化しているので、現生貝で復元品をつくって横に並べて、「元々はこんなに美しいものだったのですよ」という形で紹介したいと思っている。	現生品での復元制作も含め、展示制作の中で工夫していきたい。
展示方法	24	編みかごも、報告書に掲載してあるような、タテ材、ヨコ材で色を変えて、編み方がよく分かる図を使用したらどうか。実物には、なかなかライティングできないだろうから、そういうものでカバーするなどの工夫が必要だろう。どうしても展示が全体的に暗くて、ぼやっとしているイメージなので、展示全体のコンセプトとして、展示室全体を明るくすることはもう無理なのか。	展示室全体を明るくするのは難しいかもしれない。	タテ材とヨコ材で色を変えた編みかごの実測図は展示予定である。その他、スポットライト等の照明の工夫で見やすい展示を心がけたい。

項目	主な意見		事務局の回答等	対応等
展示方法	25	<p>展示品が地味ということだったが、独立の展示ケースを洒落たケースにすると、それなりに美しく見える。プラットフォームの場合、下に照明を仕込むことができるので、そうすると、展示品のたまりのところなどに光が当たる。プラットフォームが多いので、ケースの上面には必ずまぶしさを低減するフィルムを貼らないと上の照明が当たるということと、照明のラインを考えて手前に置かないようにするとか、実際に見る方の反対側から照明を当てるようにしないと影になるので、そういうところも配慮していただければと思う。</p>	-	<p>照明や反射低減フィルムや背景など、見やすく効果的な展示になるように、展示制作の中で具体的に検討していきたい。</p>
	26	<p>遺跡の場所とガイダンス施設、調整池などの位置関係が分かるものや、史跡現地に行くとどういうことができるかということが展示やパネル等で紹介してほしい。自然とも近い場所なので、花や鳥、どういう生物が見られるかなど、そういう紹介もどこかにあって良いと思う。</p>	<p>ラウンジでの紹介になると思うが、史跡地は調整池内にあって、自然と親しんでいただくエリアでもあるので、季節的な見どころを写真で紹介したり、特にここは冬になると野鳥が多いので、野鳥を紹介したりというのでもあって良いと思う。また、調整池は洪水に備えた防災施設で、SDGsとの関係もあるので、そういった方向の紹介をラウンジでうまく展開できたらと思っている。</p>	<p>遺跡の場所とガイダンス施設、調整池等の位置関係が分かるものは、ラウンジや広場、調整池の入口付近等に設置を検討したい。現地（史跡地）と調整池の自然環境等の紹介は、ラウンジ等でも積極的に行いたい。</p>
	27	<p>「もしかして今より豊かなくらしをしていたかも？」というフレーズの想像がつかない。今より豊かなくらしと言われても、そうかなと思ってしまうのは自分だけだろうか。 「今を考える」というコンセプトではあるが、今はこんなに贅沢かというふうに思うかもしれないし、どういふふうに何を伝えるのかということが、ここに書いてあるコンセプトにダイレクトにつながるか想像がつかない。</p>	<p>見学される方それぞれ、多分考え方も違うし、思っていることも違うだろう。来訪者が同じように、縄文時代が本当にこれで豊かなのかなと感じる人もいれば、すごく自然を巧みに利用して、8000年という古い時代ではあるが、いろいろな工夫をして自然と一緒に生きてきていて、精神的には意外に豊かな人たちだったと感じてもらえればと思う。</p>	<p>展示や体験をとおして、日本人の自然を大切に思う心というものが縄文時代からあったのだと感じてもらえたらと思っている。運営コンセプトにもあるように、今の生活が本当に豊かなのか、気づかせるような工夫を展示や体験をとおして行いたい。</p>
	28	<p>展示エリアに入ってきた時にインパクトを与えることを考えると、そこまでお金をかけられるかどうか分からないが、導入エリアの最初のところで、映像で当時の様子を再現した映像などを流すことはできないか。</p>	<p>予算の面もあるが、映像だと少し誘導的になるようなイメージがあるので、イラストなどで紹介した方が柔軟ではないかと思っている。大きくは予算面が大きい。</p>	<p>映像についても、予算面を考慮し検討したい。</p>

項目	主な意見		事務局の回答等	対応等
展示方法	29	<p>デザイナーなどに意見を伺ってみてはどうか。今のままだと専門的なことを知っている人が「おおっ」と言っても、そうではない人が来た時は、「ふーん」で通り過ぎて終わりそうな気がする。そういう意味で、ストーリーなどをしっかりつくっていく演出、例えば音の問題とか、雰囲気っていろいろなものをつくっていけると思う。そこはぜひ、もう一ひねりしていただけないかと思った。</p>	—	<p>効果音については、設計の中で検討した経緯もあり、色々な分野の方々の意見を聞く機会を設け、実際にその意見が反映できるような工夫も、展示制作の中で検討していきたい。</p>
観光等	30	<p>佐賀市には観光ルートがない。水をテーマにすると、東名遺跡から石井樋、そして古賀銀行周辺のクリーク、佐賀城、三重津海軍所跡からひがさすというルートが想定できる。佐賀に来た人たちが観光をする時の入り口にしてしまえば、観光で来る人たちも巻き込めると思う。</p> <p>東名遺跡だけのお土産を作るのは限界がある。古賀銀行や佐賀錦、肥前びどろなど、そういう商品開発までした上でお土産を作っていけば、プロダクトを置く際に幅も広がる。また、お土産を作る時は、ロットをさばく必要あり、この施設だけでは限界があると思う。そういう意味で、東名遺跡の施設ではあるが、同時に、佐賀市の観光の1つのポイント、できれば入り口になるような位置付けをした方が良いと思う。</p>	—	<p>関係部署とも連携を図りながら、佐賀市の観光全体の枠組みの中で検討をしたい。まずは歴史遺産を中心に、どのようなテーマで繋いでいくか、観光ルートの検討から始めてみたい。</p>

■建築工事状況（現地視察）

- ・R7.10：建築工事着工 → R9.01：建築工事完了予定 → R9：外構・植栽工事予定
- ・R8.01：展示制作着手予定 → R9.08：展示制作完了予定
- ・R9.03：隣接部分の県道整備完了予定

■東名遺跡活用事業

- 東名遺跡出前授業
 - R7.05～07（延べ33日），27校（市内26校・神崎市1校），小学6年生1,771人対象
 - H24から開始，14年間で16,000人以上の児童を対象に実施
- 貝輪づくり
 - R7.7/14，小学生39人（全体67人保護者含）参加
- 保存活用イベントの実施（チラシ別添）
 - ・企画展「東名発掘ストーリー」の開催
 - R7.8/21～R8.3/15，市図書館（15日間422人）→東名縄文館→吉野ヶ里遺跡
- ・おもしろ縄文講座
 - <第1回>「まぼろしの貝 オオツタノハの謎に迫る！」（講師）忍澤成視
 - 8/23講演（40人），8/24体験（10人）
 - <第2回>「動物考古学入門—動物骨から何がわかるの？—」（講師）丸山真史
 - 9/6（午前）小学生親子10組，（午後）一般10人
 - <第3回>「考古イラスト教室—縄文の世界を描こう—」（講師）早川和子
 - 11/15開催予定
- 編みかごワークショップ，R8.03開催予定
- ※（仮）東名遺跡ファンクラブ：73人登録，令和8年度に史跡指定10周年記念イベントを計画中

■東名遺跡ワーキンググループ

- ・R7.04：WGの役割と目的，東名遺跡整備事業の紹介，ワークショップ
- ・R7.05：情報発信・イベントについてのワークショップ
- ・R7.07：情報発信のためのスマホ写真講座
- ・R7.08：施設の愛称についてのワークショップ

■情報発信の取り組み

- イベントへの参加
 - ・R7.6/8：諸富町木工店が主催「いわいのわ」に東名遺跡ブース出店，全体で約60店が出店
 - さわれる展示，縄文コースターづくり，出土貝殻配布
 - ・R7.10/5：ark主催「まあいマルシェ」に東名遺跡ブース出店，約180人が参加
 - さわれる展示，出土貝殻配布
 - ・R7.10/26：「金立はがくれの里まつり」に東名遺跡ブース出店，
 - 火起こし，勾玉づくり，土笛づくり
- ※令和8年度はバルーンフェスタへの出店を検討中
- SNS運用の活発化を検討
 - ・Facebook「佐賀市文化財情報」への投稿回数増（フォロワー1,000人以上）
 - ・東名遺跡ガイダンス・埋蔵文化財センター用のInstagram，X，Facebookの開設準備中

■その他

- ・東名遺跡出土貝殻を使った和紙や磁器の制作
- ・施設名、愛称等の検討

《施設運営コンセプト》

考古学って、考今学かも。

～8000年前の縄文生活に、サステナブルのヒントをもらおう～



1. 出前授業
出土品に触れながら1クラス・45分×2コマ



2. 出前授業
4,5人グループ用の出土品キットを準備



3. 貝輪づくり
ベンケイガイを素材に石と角で製作



4. 第1回おもしろ縄文講座(講座)
「貝輪の考古学」



5. 第1回おもしろ縄文講座(体験)
「日本初!貴重なオオツタノハで貝輪をつくろう!」



6. 第2回おもしろ縄文講座
出土骨を現生標本と比較して特定



7. 第2回おもしろ縄文講座
サメ椎骨のアクセサリーづくり



8. 東名遺跡活用ワーキンググループ
情報発信・イベントについてのワークショップ



9. イベントへの参加
「いわいのわ」での情報発信



10. イベントへの参加
「まあいマルシェ」での情報発信

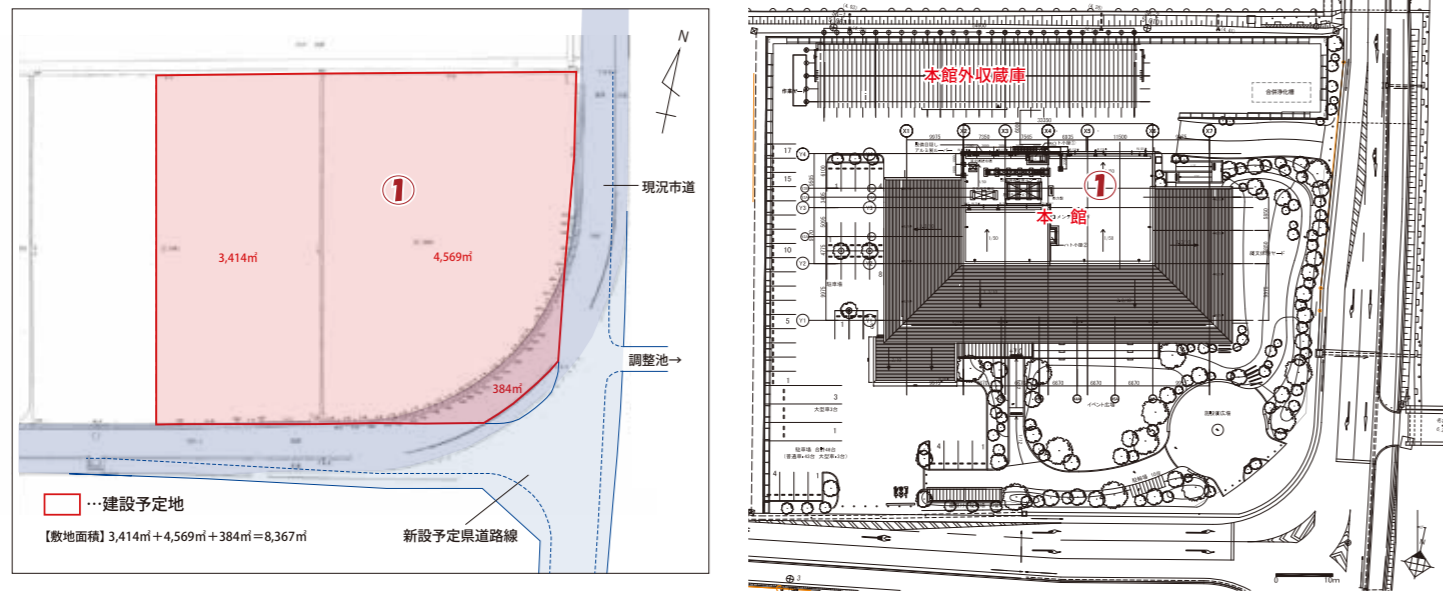


11. イベントへの参加
「はがくれの里まつり」での情報発信



12. イベントへの参加
「はがくれの里まつり」での情報発信

東名遺跡ガイダンス・埋蔵文化財センター施設位置図（左）と配置計画図（右）



■ 史跡地への動線の確保

ガイダンス施設から巨勢川調整池内（史跡地）への安全な動線を確保するため、県道整備後に横断歩道等の敷設が必要。⇒警察協議（今後継続的に行っていく）

<参考>

- 過去に行われた交通量調査から、新設された交差点付近の自動車通行量は4,900台/日（平日）と想定。
- ガイダンス施設の来館者数は年間4万人を想定。

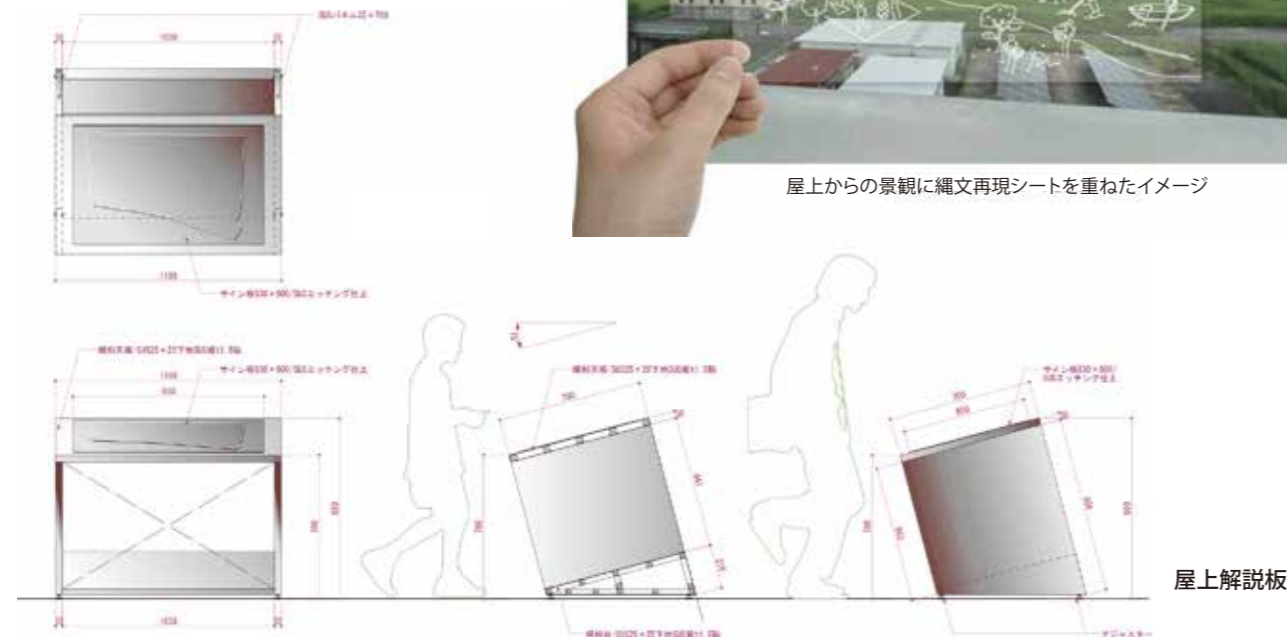
■ 東名縄文館屋上からの眺望

現在の風景とは大きく異なる縄文時代の景観をイメージしてもらうため、屋上からの眺望を確保する。

屋上から見える風景を縄文時代の景観に復元したイラスト等を展示する解説板を設置し、さらに縄文再現シート等を重ねて眺望することで、当時の景観をイメージさせる。東名縄文館1階は、休憩、現地案内、現地ガイドの待機場所等で利用を検討する。

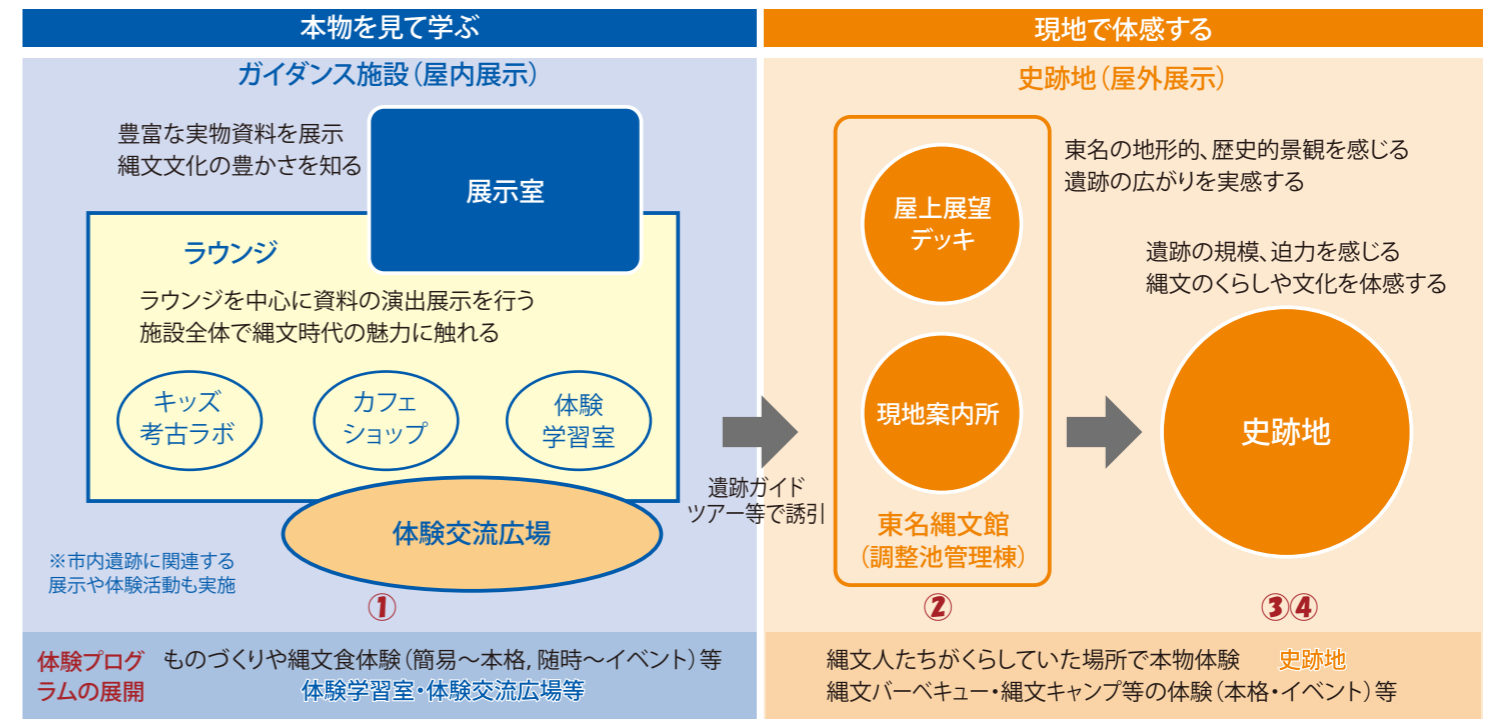


屋上からの景観に縄文再現シートを重ねたイメージ

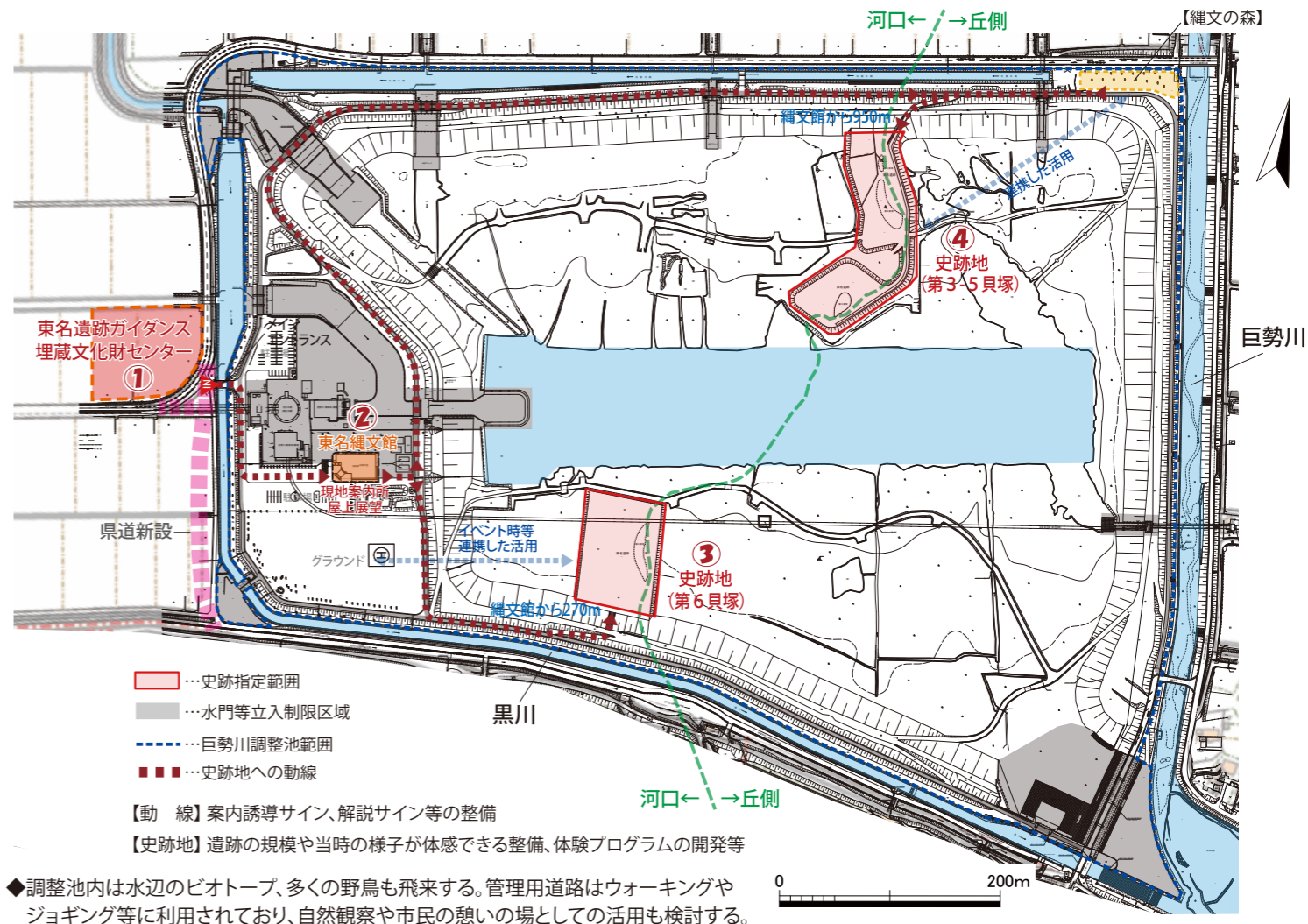


屋上解説板

屋内と屋外空間の一体的整備



【ガイダンス施設・史跡地】 自然と共生していた縄文時代の暮らしに触れる + 水辺に広がる自然環境→自然の大切さを学ぶ 持続可能な社会を目指す意識の醸成
 これからのくらしに活かす 東名遺跡は温暖化の影響で埋没 + 洪水対策用の防災施設→防災の必要性を学ぶ



◆調整池内は水辺のピオトープ、多くの野鳥も飛来する。管理用道路はウォーキングやジョギング等に利用されており、自然観察や市民の憩いの場としての活用も検討する。

■屋外展示の基本方針

現在の史跡地は、調整池の中に盛土保存され、遺跡そのものを実見できないことから、セルフガイドによる情報提供のみでは不十分である。そのため、体験活動を通じた活用プログラム（ソフト）運用が効果的と考えられる。

調整池の現況を活かしつつ、屋内展示コンテンツと連動した解説サインの配置、実際に縄文人たちがくらししていた場所で本物体験できるプログラムを想定し、それに応じたハード整備を行う。またビューポイントである東名縄文館の屋上から、第6貝塚の白い貝塚面を視認できるようにし、史跡地のシンボリックなビューと共に、現地への誘いを演出する。

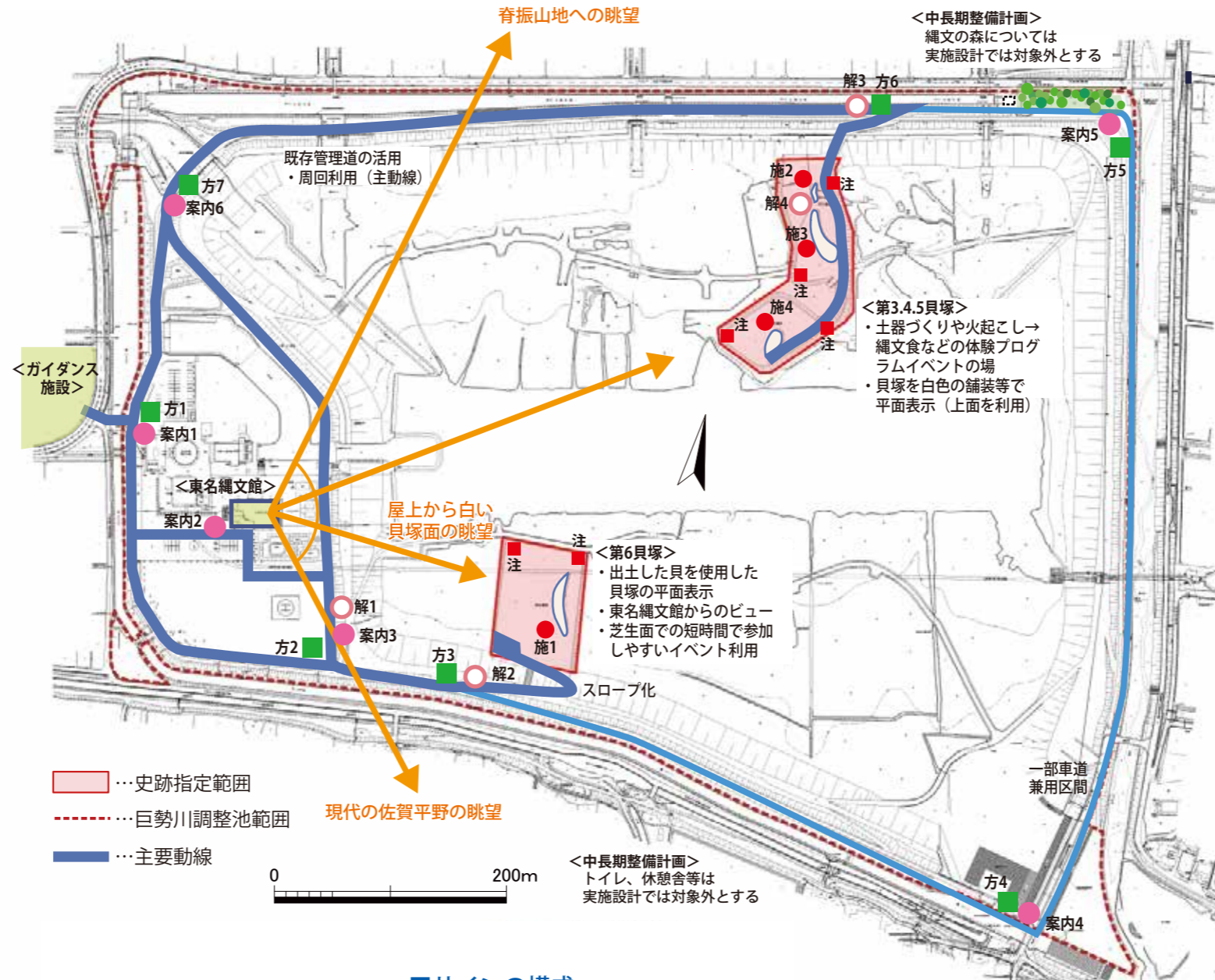
また、史跡地及び周辺地については、中長期的な視点で、運営状況に応じて段階的な整備を行う。「縄文の森」の樹勢回復等やトイレ、休憩舎等については、中長期整備計画とし、今回の実施設計では対象外とする。

■調整池周辺環境の活用と施設整備

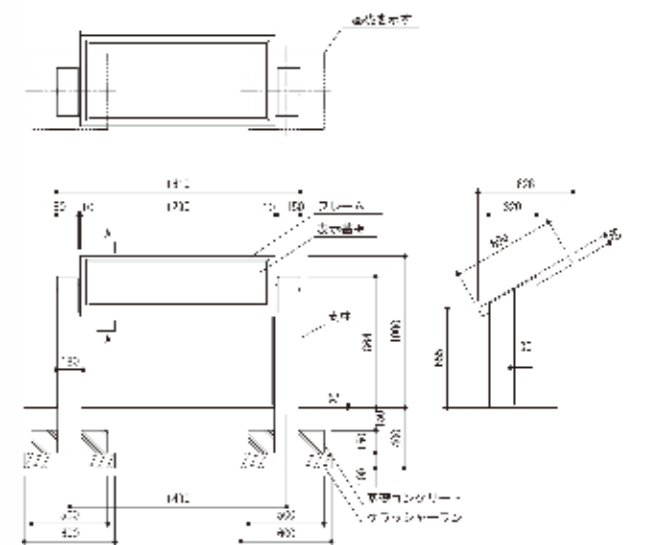
調整池の外周管理道は、日常利用として、散歩やジョギング、野鳥観察などで楽しまれており、自然とふれあえる場所となっている。これらの自然景観は、自然と共生していた縄文時代をイメージする展示や体験の1つとして積極的な活用を検討する。

それに加え、縄文時代の景観イメージや遺跡の規模・迫力を感じてもらふ施設として、貝塚表面表示やサインシステムの導入を行う。

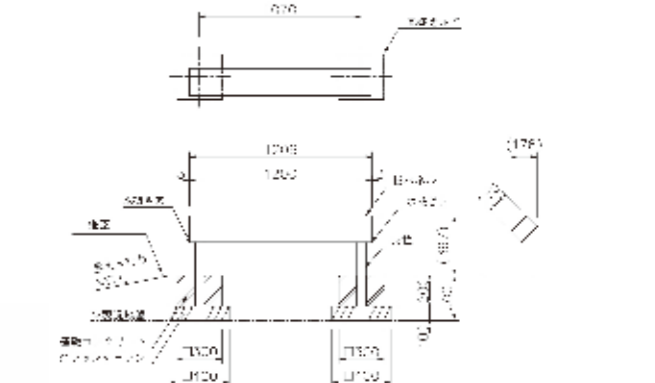
また、第6貝塚へのスムーズなアプローチを確保するため、進入路のスロープ化を行う。



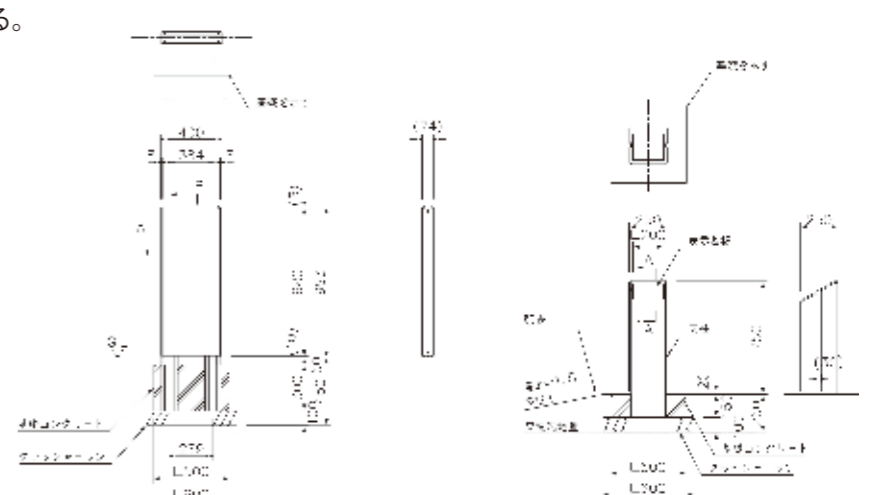
【主要なサインの基本構造】



解説板



施設板



方向指示板

注意板



野鳥の群れ(調整池自然景観)



早春の風景(調整池自然景観)

■サインの整備方針

- ・縄文時代の遺跡であることを踏まえ、野外の自然景観に調和し、違和感のないデザインとする。
- ・対象地の大半が河川区域の堤外地であるため、河川法上の構造物の高さ1m以内で統一したものとし、冠水時を考慮した維持管理のしやすいシンプルな形状、材質とする。
- ・材質は耐候性が高く、表現が自由でコスト面でも優位な鋼材（アルミ材）を選定する。
- ・サイン（解説板）形状は基本を傾斜型とし、その他に方向指示板、施設名板、注意板等も全体の統一性を保つために、類似の形状とする。
- ・多言語化対応は、ガイダンス施設の屋内展示と同等に、タイトルに英文ルビを付したものとす。QRコード、リーフレットでの対応も検討する。

■サインの構成

- 案内板（1～6）地図等を用いて、施設や区域の全体像を案内・紹介する。
 - 案内1：調整池全体の案内+東名遺跡の概要〔直立大型〕
 - 案内2：調整池全体図+縄文館の案内〔斜板型〕
 - 案内3～6：調整池全体図+史跡地の案内〔斜板型〕
- 解説板（1～4）内容解説のためにグラフィックや解説文を配置する。
 - 解1：縄文時代の地形景観（遺跡全体イラスト）海進による埋没等の解説
 - 解2：縄文時代の地形景観（第6貝塚から脊振山系への眺望/イラスト）第6貝塚についての解説
 - 解3：縄文時代の地形景観（第5貝塚から有明海への眺望/イラスト）第3～5貝塚についての解説
 - 解4：東名遺跡の現地保存（キャッピング+モニタリング）
- 方向指示板（1～9）各施設の方角と距離を表示（園路分岐点に設置）
- 施設名板（1・2）遺跡名・貝塚名の表示
- 注意板（6箇所）水域の進入禁止等の注意喚起

4 東名遺跡屋外展示実施設計

2 貝塚表面表示と園路・広場整備

■貝塚への動線の考え方

- 第6貝塚へは、ガイダンス施設と史跡地の結節点である東名縄文館屋上からの眺望を経て、南側堤体上の管理道からアクセスする。シンボリックな整備として、出土貝殻を使用した表面表示を行う。東名縄文館からは約270m。
- 第3～5貝塚は、煮炊きや火起こしなどの「野外イベント」での利用を主として想定し、北側堤体上の管理道からアクセスする。イベント時の体験活動がしやすいよう貝塚表示を舗装面とする。東名縄文館からは約950m。

■史跡地の整備

- 貝塚表面表示については、第6貝塚は貝殻+排水スクリーン、第3～5貝塚はコンクリート舗装とする。
- 園路は、現況管理道及び坂路を極力活用し、改変範囲を最小限とする。
- 観測孔カバーを第4・5貝塚表面表示舗装内に、それぞれ設置する。
- 河川区域内施設は、河川管理に支障をきたさないよう高さ1.0m以内を目安とする。
- 堤外地の園路幅員はW=2.0m（市整備基準は1.2m以上）を原則とする。
- 利便性を高めるため、坂路や高水敷内の動線は、冠水を考慮した舗装とする。（アスファルト/コンクリート舗装。土系舗装は冠水による耐久性に難あり。）

■バリアフリーの考え方

- 管理道：平坦であり主動線として活用（W=4m前後、既存アスファルト舗装）
- 第6貝塚：バリアフリー対応のスロープ・手すりを設置（現況坂路は3.8%）
- 第3～5貝塚：健常者対応の施設整備とする（現況坂路は最大8%）

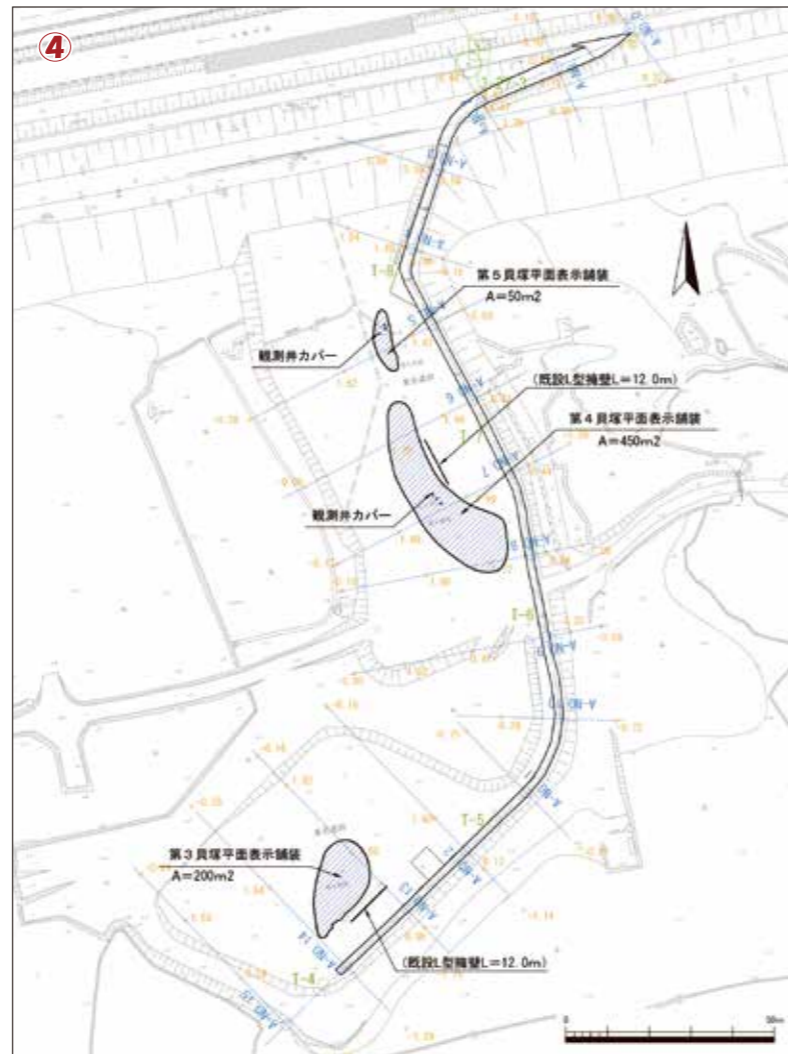
◇佐賀市福祉のまちづくり条例
ユニバーサルデザイン施設整備基準
<公園>園路：幅員120cm以上
横断勾配8%以下（縁石切り下げ等も8%以下）
縦断勾配4%以上が50m以上続く場合は150cm以上の水平部を設置

■基盤整備の考え方

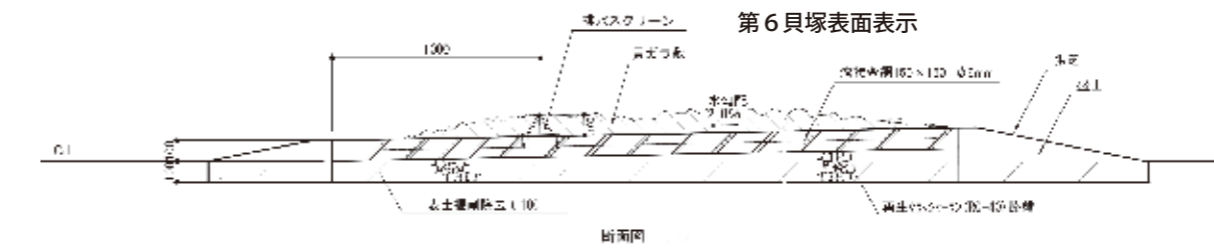
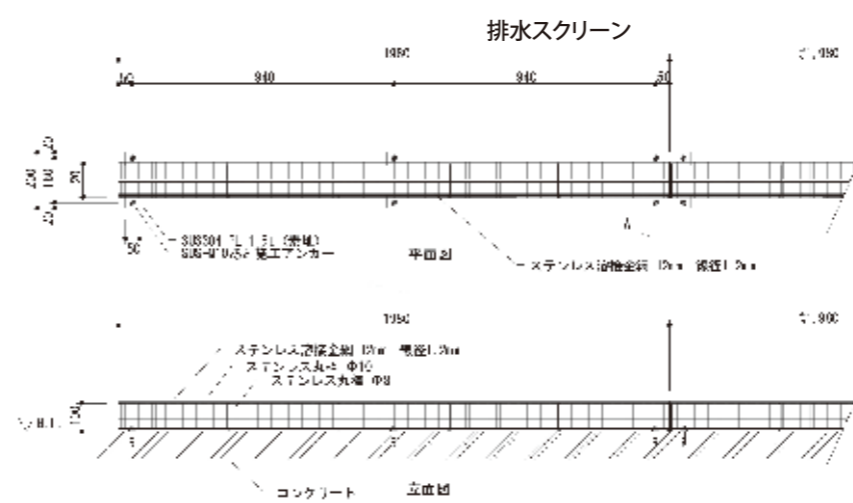
- 調整池貯水容量への影響がないように、第3・4貝塚でL型擁壁埋設整地部分を切土することで、第6貝塚のスロープ造成土量とのバランスを図る。
※定規断面は侵さないこと



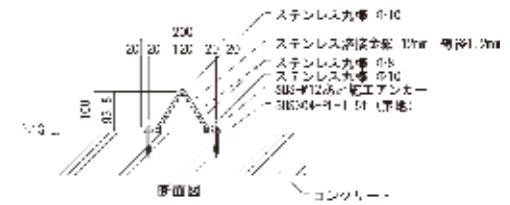
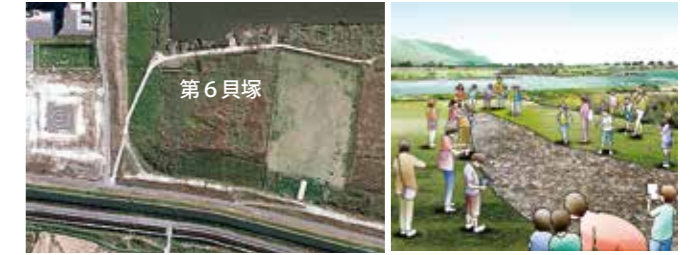
第6貝塚整備平面図



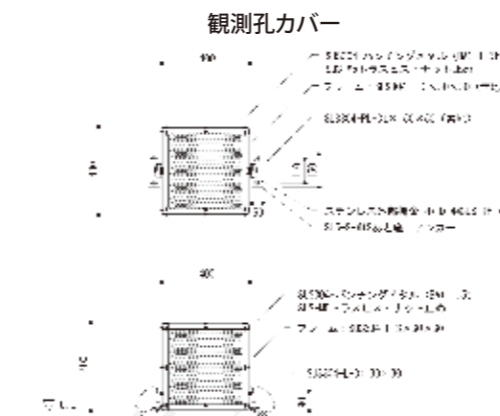
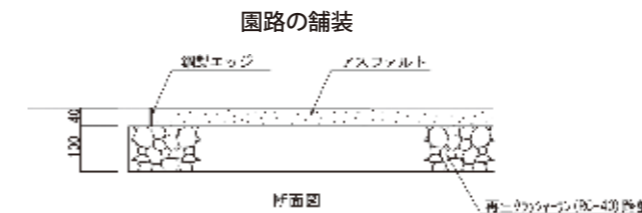
第3～5貝塚整備平面図



【第6貝塚】



貝殻の使用イメージ(例:北黄金貝塚)



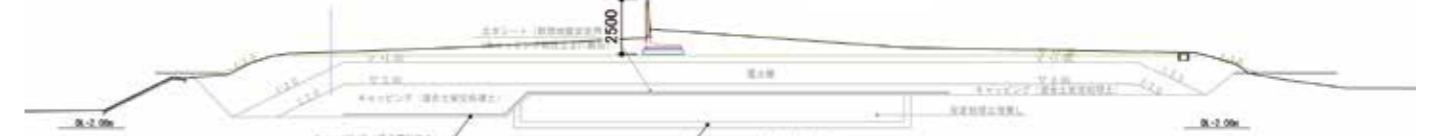
【第3～5貝塚】



第4貝塚観測孔とL型擁壁



第3・4貝塚のL型擁壁とキャッピング盛土との関係断面図

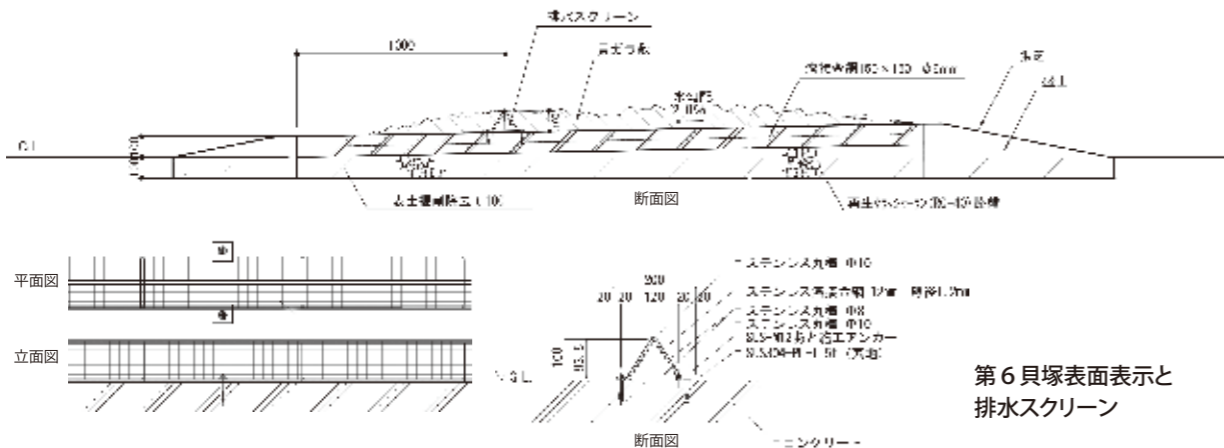


4 東名遺跡屋外展示実施設計

3 貝塚表面表示用貝殻試験施工

■第6貝塚表面表示施工内容

- ・実際に出土した貝殻を散布（10～15cm厚）して、広大な敷地の中で貝塚の存在感を演出する。
- ・底面は、貝殻層の排水性をよくするためコンクリート打設とし、水勾配（2%）を設ける。
- ・貝殻の流出・飛散防止のため、排水スクリーン（SUS金網）を土留めとして設置する。



第6貝塚表面表示と排水スクリーン

■貝殻試験施工

実施設計及び今後の維持管理方策への情報収集として、以下の観点で現地にて実証実験を行う。

○適正な貝種の選定

- 耐候性：補充等の管理頻度の目安の把握。
- 劣化状況に応じては貝種の制限が生じる。

○供用後の維持管理方法

- 耐久性：踏圧の結果に応じて、立入り制限の有無を決定。

○冠水後の清掃作業

- 洗浄機器の選定や効果の確認。
- 流出・飛散状況による網目サイズの検証。

○設置日：令和7年9月17日（水） ※1ヵ月毎の観察を継続する。

【実験A】出土した貝種毎の暴露実験（耐候性）

出土貝類は、通常の貝類よりも耐候性が劣る可能性がある。

<目的> 貝種の指定判断や、維持管理上の交換時期の目安を把握するため。

<方法> 天日や降雨・冠水にさらした状態を維持し、耐候性の目安を得る（補充時期の目安）

金網バット中に貝種毎に設置し、一定期間（整備完了まで）存置する。

- ①シジミ ②ハイガイ ③カキ ※アゲマキは細片状のものが多いため対象外とした。

【実験B】混合貝類の踏圧実験（耐久性）

設計では、量的に多く散布に使用しやすい混合貝類を想定（貝種を指定すると分別作業が必要）。設計上の厚さで貝類を散布し、踏圧をかけ、実際の状況を確認する。

<目的> 設計と同条件で、貝殻の損耗や飛散流出等の状況確認を行う。

<方法> 0.9m角にコンクリート平板を敷き詰め、四方をステンレス金網で囲う。

貝類を10～15cm厚程度で散布後、数回踏圧をかける（1箇所10回程度）。

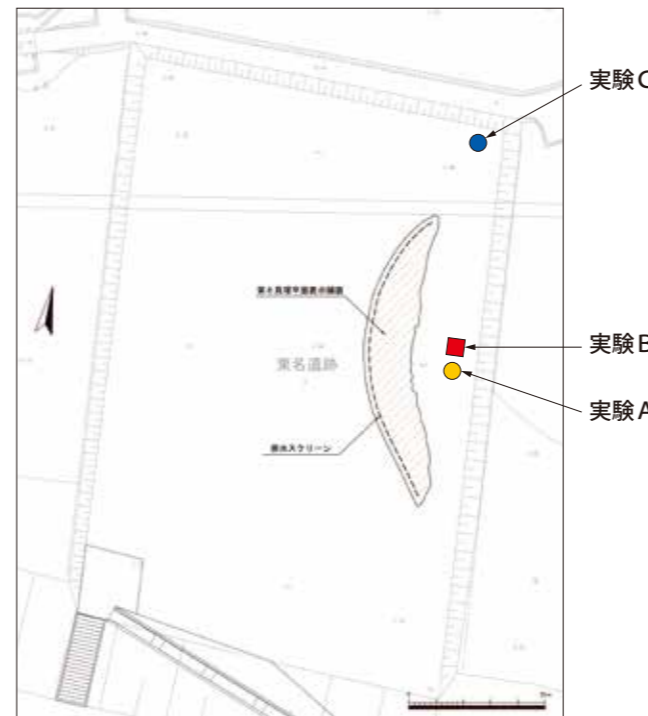
→破損・損耗の状況によっては、人の立入は行わない管理とする。

【実験C】混合貝類の冠水・清掃実験

<目的> 冠水時とその洗浄による飛散流出等の状況確認を行う。

<方法> Aと同様の金網バットで、冠水しやすい部分に設置。

実際に施工を予定する混合貝類での状況確認を行う。



第6貝塚試験施工位置図

【実験A】貝殻状況写真

<金網バット:470×295×100mm>



<参考>

2次利用を想定している保管貝サンプルの総量
コンテナ約5,200箱（1箱0.018㎡,18ℓ）

貝塚表示に使用可能な貝類：5,200箱×60%=3,120箱（56.16㎡）※砂礫・破片貝類除く
第6貝塚想定範囲約330㎡、厚さ10cmで散布するためには33㎡の貝類が必要
33㎡÷0.018㎡=コンテナ約1,830箱の貝類を使用

■観察結果（令和7年10月20日現在）

【実験A】特に変化なし。

【実験B】特に変化なし（踏圧をかけたところ、シジミ類が少量割れた程度）。

【実験C】特に変化なし。盛土上だが、冬場に冠水する箇所にある。まだ冠水していない。



【実験B】貝殻状況写真<900×900mm, 11.5mmメッシュ>



踏圧試験状況

5 東名遺跡・埋蔵文化財センター整備事業スケジュール(予定)

【資料5】

年度		R6(2024)				R7(2025)				R8(2026)				R9(2027)				R10(2028)			
設計	建築実施設計																				
	屋内展示実施設計																				
	屋外展示実施設計																				
施設・ 現地整備	造成工事																				
	建築工事																				
	外構(植栽)工事																				
	備品搬入等																				
	屋内展示制作																				
	現地整備工事 (屋外展示)																				
準備・ 手続き等	県道整備工事等																				
	移転作業・開館準備																				
	建築計画通知手続き																				
	文化庁補助金																				
情報発信・ 運営関係	広報(HP・SNS)																				
	ワークショップ・ 体験イベント等																				
	ワーキンググループ 施設運営検討																				
委員会	整備指導委員会																				
	保存モニタリング 委員会																				

供用開始

※令和9年度に整備工事完了、令和10年度に供用開始予定

【委員会の開催】

東名遺跡整備指導委員会:年2回程度

東名遺跡保存モニタリング委員会:年1回程度

《東名遺跡整備指導委員会検討内容》

第5回:実施設計の確認・検討

第6回:実施設計の最終確認

第7回:屋外展示実施設計の確認・検討

第8回:屋外展示実施設計の最終確認

第9回:建築工事の状況確認

第10回:建築工事の最終確認・屋外展示工事の状況確認

第11回:屋内展示制作の最終確認・屋外展示工事の状況確認

第12回:整備工事の最終確認